

稲作管理情報 第2号

平成 23 年 5 月 30 日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

うるち玄米1等比率90%以上を目指して！

溝掘り・中干し運動実施中！！

中干しは田植えの1か月後頃を目安に行いましょう！

中干しまでに茎数を確保しましょう！

～適切な水管理で分けつを促進！～

(生育概況)

- ・田植直後の強風により、一部の圃場で植え傷みが見られます。

(今後の水管理)

- ・活着後は2～3cmの浅水管理(早朝入水・日中止水)を徹底しましょう。
→水温・地温の上昇に努め、初期生育の促進を図りましょう。
- ・藻が発生している(還元状態の)ほ場では、軽めの田干しを行いましょう。
→根に酸素を供給しましょう。

必ず溝掘りを行いましょう！

溝掘り
の効果

- ・田全体の排水を図り、中干しの効果を高めることができます。
- ・溝掘りによって、中干し後から生育後半までの水管理がしやすくなります。

溝掘りのポイント

- ・軽く田干しを行い、泥を落ち着かせて溝を掘る。
- ・溝は5m(15条)に1本を目安に設置する。
- ・溝は必ず排水口に連結する。
- ・額縁は必ず溝を設置する。
- ・水口付近など、乾きにくいところは重点的に設置する。

5月下旬～6月上旬
に設置を！



<土が硬いと溝がしっかり残る>



<土が柔らかいと溝が崩れてしまう>



～裏面は中干しのポイント～



中干し開始時期の目安

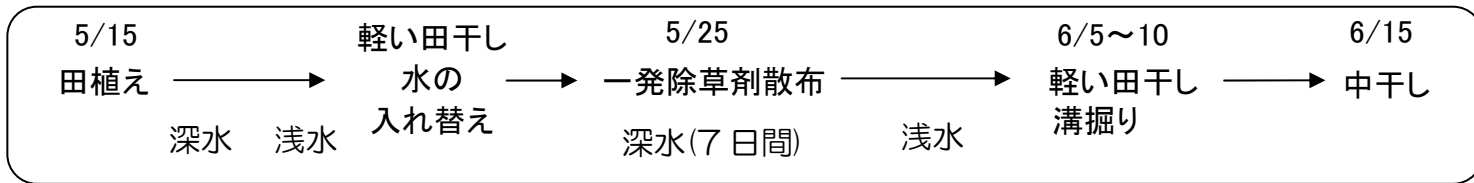
⚠ 田植えの1か月後頃を目安に行いましょう！

○茎数がとれていない場合でも、田植えの1か月後頃を目安に遅れず中干しを開始しましょう。

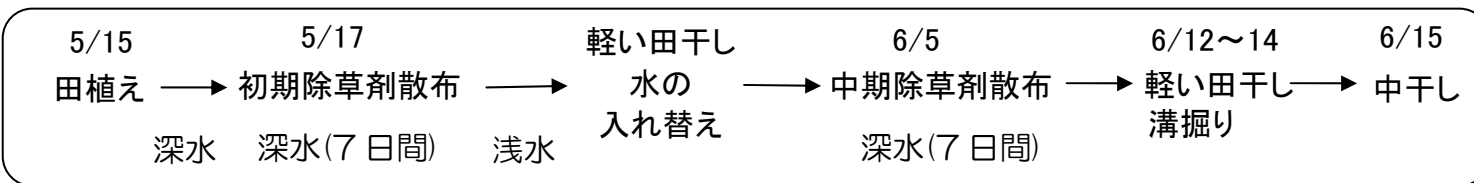
てんたかく等 → 6月上旬
コシヒカリ → 6月中旬
に遅れずにスタートしましょう！

スケジュール例(コシヒカリの場合)

例1:一発処理型



例2:体系処理型



※使用する除草剤によって多少前後しますので、ご確認ください。

中干しのポイント



中干し前に溝の手直しを行いましょう。

【中干しの効果】

- ① 土壌中の有害ガスの排出
- ② 根の生育を促進
- ③ 過剰な分けつの抑制
- ④ 収穫時のほ場の硬さを確保
⇒高品質で安全な米づくりに重要な出穂後の湛水管理に備えましょう。

【中干しの程度】

○土壌条件に応じて実施し、田面に小さなひびが入る程度を目安としましょう。

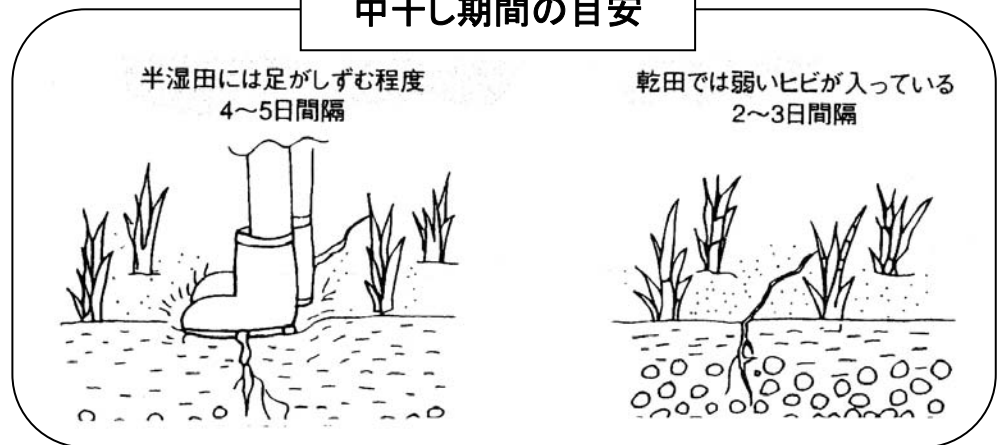
※茎数が多くなりやすいほ場や乾きにくいほ場は、やや強めに干しましょう。

【中干し後の水管理】

○中干し後は、間断かん水を行いましょう。

⇒根に水と酸素を交互に与えることにより健全な稲体が維持できます。

中干し期間の目安



その他の管理

- 畦畔等の草刈りの実施 (カメムシ類の発生防止)
- 補植用苗の除去 (いもち病の発生防止)

「栽培管理記録簿」や「GAP (農業生産工程管理簿)」への記帳は確実に！

カリ入りの土づくり肥料を施用しなかった場合は、Kマグケイサンを6月20日頃に施用しましょう！